

在伯埼玉果人会 2010年度  
 定期総会 2010-02-27  
 邦字紙 カハワの新掲載

若い世代も参加できる行事を

埼玉県人会、会員増員に意欲

ブラジル埼玉県人会（飯島秀昭会長）の2010年度定期総会が、2月27日午前11時半（第2次招集）から聖市ペラ・ピスタ区の日本食レスト

ランで開かれ、サンパウロやリオなどから35人が出席した。総会では先づ者への黙祷に続き、飯島会長が「アクション無し」をモットーに活動してきたことにより会員が増えたことに触れ、日系社会で団体の不祥事

が相次ぐ中、「我々の県人会は貧乏で、まだ出費だけなので（公金横領の）心配はない」とユニモアを交えて挨拶。「皆さんが参加できる県人会にするには、皆さんの努力がなければ動かない」と述べ、積極的な行動を促した。

続いて、上田清司埼玉県知事、竹並万吉埼玉県議会議員（日伯友好議員連盟会長）のメッセージが代読された。

09年事業報告の後の09年会計報告では、収入2万7045・98レアル、

支出4万8441・44レアルで、母県でのイベント参加による訪日などで2万1395・46レアルの赤字になったことが報告された。

10年度予算案は6万9千レアルが計上。10年度事業案について飯島会長は、目標を100人とする会員増加キャンペーン、埼玉県側のイベント参加の継続、太鼓・よさこいソーランなど若い世代とともにできるイベントの開催などを実施していく考えを示した。

飯島会長は「県人会が自立できる価値のある団体になることで、今は小さな単位でも日本とブラジルは5年後、10年後にすごい関係になれる。」

『埼玉クラブ』のようにして、4世や5世の人も気軽に入れるようにしていきたい」と意気込みを見せていた。

総会後は、島田正市氏が乾杯の音頭を取り、新年会が行われた。



乾杯する埼玉県人会員たち